

科目名	解剖生理学	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門基礎分野		講義			2	1年 前期
担当者	村上彩香・越智拓哉・長井敦	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	20 / 60時間
担当者	曾我部恭成	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	20 / 60時間
担当者	山本泰宏	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	20 / 60時間

授業の目的・ねらい

人体の構造と機能を学ぶことは、看護師教育の基礎となるものである。
医学は急速に進化・発展しており、高度の内容まで学習しておくことが求められる。特に解剖学と生理学を融合して学習し、人体を統合してとらえて学ぶ。

学生の到達目標

1. 人体の発生、形態、機能について系統的に、かつ解剖学と生理学を統合して理解できる。
2. 人体の構造と機能について理解できる。
3. 循環器・消化器・呼吸器系では人体の構造と機能について系統的に理解できる。
4. 脳と神経・感覚器・泌尿器・生殖器系では生命維持に必要な人体の統合と制御について理解できる。

授業概要（授業計画）

<村上彩香・越智拓哉・長井敦>

1. } 解剖生理学の基礎的知識
2. }
3. } 身体の支持と運動
4. }
5. } 上肢・下肢の骨格と筋
6. }
7. 体表からみた人体の構造
8. 身体機能の防御と適応
9. 免疫の異常・アレルギー
10. 筆記試験・まとめ

<曾我部恭成>

1. 栄養の消化と吸収
2. }
3. } 消化器の構造と機能
4. }
5. } 呼吸器の構造と機能、血液の働き
6. }
7. } 血液循環とその調節
8. }
9. 体循環の動脈・静脈・血圧
10. 筆記試験・まとめ

<山本泰宏>

1. 体液の調節と尿の生成
2. }
3. } 内臓機能の調節（内分泌・ホルモン）
4. }
5. } 脳・神経系の構造と機能
6. }
7. 情報の受容と処理
8. 生殖、発生と老化のしくみ
9. 練習問題とまとめ
10. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 最新版

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	生化学	必修 選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 前期	
担当者	松村美紀	資格	医学博士 農学博士	実務 経験	有・無	時間	19時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>生体を構成している物質が不足あるいは過剰になった時、我々の身体には様々な症状が現れる。病気を理解するためには生体の構成成分の知識が不可欠である。そこで生体の構成成分の種類と役割を理解し、それらがどのように代謝・調節されているかを学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の成り立ちと、生体を構成している基本物質の働きについて理解できる。 2. 糖質・脂質・アミノ酸及び蛋白質の代謝について理解できる。 3. 核酸・ホルモン・ビタミンの役割、働きについて理解できる。 4. 免疫・遺伝子・血液の働きについて理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アミノ酸・蛋白質の構造と性質 2. ビタミンの分類と生理作用 3. 酵素と阻害形式 4. 糖質の種類とその代謝・エネルギー代謝 5. 脂質の種類とその代謝 6. 蛋白質代謝 7. 遺伝子とその発現 8. ホルモンの分類と生理作用 9. 血液の成分と働き・ヘム代謝 10. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>石黒伊三雄・篠原力雄 わかりやすい生化学 第5版 ヌーベルヒロカワ 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>香川靖雄・野澤義則 著 「ナースのための生化学・栄養学」 南江堂</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	栄養学	必修 選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 前期	
担当者	青野真紀子	資格	管理栄養士	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>栄養学では栄養素の種類や意義、栄養所要量の算定について学ぶ。また、ライフスタイルに応じた栄養のあり方と食事療法について理解する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養学の種類と働き及び吸収と代謝について理解できる。 2. 栄養状態の評価・判定の方法を理解できる。 3. 各ライフステージにおける栄養の特徴とマネジメントが理解できる。 4. 臨床栄養について各疾患及び各症状別食事療法の原則が理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 炭水化物・脂質・タンパク質の働き 2. ビタミン・ミネラル・Kの働き 3. 栄養状態の評価・判定 栄養状態の評価・判定の定義と目的 栄養状態の評価・判定法 4. ライフステージと栄養 乳幼児・学童・思春期・青年期における栄養 5. ライフステージと栄養 成人・妊娠期・授乳期・更年期・高齢期における栄養 6. 臨床栄養 病院食、疾患別（高血圧、糖尿病（代謝異常含む）） 7. 臨床栄養 疾患別（高脂血症、腎疾患） 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	病理学（総論）	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 前期
区分	専門基礎分野						
担当者	佐々木信敬	資格	獣医師・衛生検査技師	実務経験	有・無	時間	19時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>病理学は疾患の病因、発生機序、経過、及び転帰すなわち、疾患の本態を究明する学問であり、基礎医学と臨床医学の「橋渡しの位置」にある。病理学は通常、病理学総論と病理学各論に分けて講義されるが、学生は病理学総論で初めて臨床医学用語に触れることになる。</p> <p>講義では「患者の健康回復」という共通の目標に向かって、他の医療従事者と意志の疎通を円滑になし得るように、最も基礎的な臨床医学用語約350余語について、各々の語義を明確に理解できるように指導する。また、看護行為に病理学的知識を応用できるようにも指導する。</p> <p>また、病理学は人体の「異常」を論じる学問であるので、新しい項目に入る時に、或いは必要に応じて適宜、解剖生理学の教科書を参照させて、人体の正常の構造及び機能を復習させる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最も基礎的な臨床医学用語350余語について理解できる。 2. 人体の異常について、特徴的な細胞の変化から理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>注 1) 一部、教科書と順番を変える。 2) 太字の項目名は教科書に記載なし。 3) 第4章(感染症)は、微生物学および公衆衛生学と重なるため、用語の解説にとどめる。</p> <p>第1-2回 病理学序論【はしがき】 【第1章 病理学で学ぶこと】 A. 看護と病理学 B. 病因 I. 内因 [1. 素因 2. 遺伝子・染色体異常（後回し） 3. 心因] II. 外因 [1. 生物学的因子 2. 物理的因子 3. 化学的因子 (1. 栄養素 2. 毒物 6. 公害病と医原病)] C. 疾病の分類 【第10章 生活習慣と環境因子による生体の障害】</p> <p>第2-3回 【第2章 細胞・組織の障害と修復、[炎症（後回し）；第6章 代謝障害】 I. 退行性病変： A. 萎縮 B. 変性 C. 局所死(壊死, 壊疽, アポトーシス)</p> <p>第3-4回 【第2章 細胞・組織の障害と修復、[炎症（後回し）；第6章 代謝障害】 II. 進行性病変： A. 肥大 B. 過形成 C. 再生 D. 化生</p> <p>第4-6回 【第5章 循環障害】 I. 血液循環障害 A. 局所循環障害 [充血, うっ血, 出血, 血栓症, 塞栓症, 虚血, 梗塞, 側副循環] B. 全身性の循環障害 [ショック, 高血圧/低血圧症, DIC] II. リンパ液循環障害 A. 水腫 B. 脱水症</p> <p>第6-7回 【第2章 炎症；第3章 免疫、移植と再生医療】 【第4章 炎症と免疫】 A. 炎症総論, 各論 B. 免疫・免疫不全 C. Allergyと自己免疫疾患 D. 移植と再生医療</p> <p>第7-8回 【第1章 病理学で学ぶこと】 I. 内因 [2. 遺伝子・染色体異常] 【第8章 先天性異常と遺伝性疾患】 【第7章 老化と死】 A. 老化・老年症候群 B. 個体死と終末期医療</p> <p>第8-9回 【第9章 腫瘍】 A. 定義と分類 B. 転移と影響 C. 発生病理 D. 診断 E. 疫学</p>							

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学
医学書院 最新版

参考書

- 1) 病理学領域における重要医学用語定義集 2020 (担当者著、毎年改訂)
- 2) 系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 最新版

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、終講試験などで評価する。

科目名	病態治療論 I (呼吸、内分泌・代謝、消化器)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		2	1年 前期	
区分	専門基礎分野						
担当者	高山朗子	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	上田晃久	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	高山雄次	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 45時間
授業の目的・ねらい 呼吸器と消化器の構造と機能について理解し、各症状と病態生理を関連づけて学ぶ。 さらに内科的治療を中心に検査と治療及び処置について理解し、各疾患の症状・診断・治療を統合して学ぶ。 内分泌・代謝の正常な機能を理解し、障害された時に特徴的に現れる症状発症のメカニズムや病態、検査及び治療について学ぶ。代表的な疾患として糖尿病、高脂血症、痛風を取り上げる。							
学生の到達目標 1. 呼吸器・消化器の構造と機能について理解できる。 2. 内分泌・代謝の機能と、障害時の症状、発生機序について理解できる。 3. 呼吸器・消化器・内分泌・代謝疾患の検査、内科的治療と処置について理解できる。							
授業概要（授業計画） <高山朗子> 呼吸器 1. 呼吸器の構造と機能、症状と病態生理 2. 検査と治療・処置 3. 感染症（肺炎、結核） 4. } 呼吸器疾患（間質性肺炎、気道疾患、肺血栓塞栓症、呼吸不全、呼吸調節に関する 5. } 疾患 6. } 呼吸器疾患（肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移 7. } 植） 8. 筆記試験、まとめ <上田晃久> 内分泌・代謝 1. 内分泌・代謝器官の構造と機能、症状と病態生理 2. 検査と治療・処置 3. 内分泌疾患（甲状腺、副腎、下垂体疾患） 4. 代謝疾患（糖尿病、高脂血症、痛風、メタボリックシンドローム） 5. 脂質異常、尿酸代謝異常 6. } 課題学習 7. } 8. 筆記試験、まとめ <高山雄次> 消化器 1. 消化器の構造と機能 2. 症状とその病態生理、検査 3. 消化器疾患、治療 4. 疾患の理解 5. ポリープ 6. 肝臓の疾患及び検査と治療 7. 膵臓 8. 筆記試験、まとめ							

教科書

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[2]	呼吸器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[6]	内分泌・代謝	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[5]	消化器	医学書院	最新版

プリント配布

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	病態治療論Ⅱ (循環、生体防御、排泄)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 前期
区分	専門基礎分野						
担当者	大下 晃	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	13 / 31時間
担当者	佐藤正晃	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	7 / 31時間
担当者	黒光浩一	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	11 / 31時間

授業の目的・ねらい

循環器の構造と機能について理解し、各症状と病態生理を関連づけて学ぶ。さらに検査と治療及び処置について理解し、各疾患の症状・診断・治療を統合して学ぶ。
 血液・造血器の正常な構造と機能を理解し、障害された時に特徴的に現れる症状発症のメカニズムや病態、検査及び治療について学ぶ。代表的な疾患として白血病を取り上げる。
 アレルギー・膠原病の発症メカニズムを理解し、各症状と病態生理を関連づけて学ぶ。

学生の到達目標

1. 循環器の解剖生理、症状、主な疾患の症状・検査・治療について理解できる。
2. 血液・造血器の解剖生理・症状・主な疾患の症状・検査・治療について理解できる。
3. アレルギー・膠原病の機序症状・治療について理解できる。
4. 腎・泌尿器・生殖器疾患の解剖生理、症状、検査、治療について理解できる。

授業概要 (授業計画)

<大下 晃>

循環器

1. 循環器の構造と機能
2. 症状とその病態生理
3. 検査と治療、処置
4. }
5. } 循環器の疾患 (虚血性心疾患、心不全、血圧異常、不整脈、弁膜症、心膜炎、
6. } 心筋疾患、肺性心、先天性肺疾患、動、静脈疾患)
7. 筆記試験、まとめ

<佐藤正晃>

生体防御

1. 血液の生理と造血のしくみ：血液の症状とその病態生理、検査と治療、処置
2. 疾患：(赤血球、白血球、リンパ網内系、異常タンパク、出血性疾患)
3. 免疫のしくみ、検査、治療
症状と疾患、膠原病
4. 筆記試験、まとめ

<黒光浩一>

腎・泌尿器疾患

1. 腎機能・尿について
2. }
3. } 腎泌尿器疾患の検査・治療
4. }
5. 腎機能・前立腺・前立腺癌について
6. 筆記試験、まとめ

教科書

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[3]	循環器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[4]	血液・造血器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[11]	アレルギー	膠原病	医学書院 最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[8]	腎・泌尿器	医学書院	最新版

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	病態治療論Ⅲ (脳・神経、運動、感覚器)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			2	1年 後期
区分	専門基礎分野						
担当者	西崎 統	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	石丸雅巳	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	木下美由紀	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	8 / 60時間
担当者	正岡佳樹	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	8 / 60時間
担当者	加藤 崇	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	7 / 60時間
担当者	小林英樹	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	7 / 60時間

授業の目的・ねらい

脳・神経の正常な構造と機能を理解し、脳・神経が障害された時に特徴的に現れる症状や疾患について学ぶ。

代表的な疾患について、発症のメカニズムや病態を理解し、各治療について学ぶ。

運動器の正常な構造と機能の学習をもとに、運動器の疾患について学ぶ。

運動器疾患に特徴的に現れる症状の発症メカニズム、及び症状からの病態把握について理解する。

また、高齢社会を反映して、骨粗鬆症を取り上げ、骨疾患について学ぶ。

皮膚の構造と機能を理解し、皮膚科疾患の特徴及び処置・治療について学ぶ。

また、皮膚科疾患特有の各種の治療・処置について、外用薬とその適応疾患及び副作用についても学ぶ。

さらに、皮膚科領域における最近の医療の動向について理解し、身体的・心理的・社会的問題からも捉えて継続的な治療の必要性について理解する。

眼の構造と機能を理解し、眼科疾患の特徴及び処置・治療について学ぶ。

眼科領域における最近の医療の動向について理解し、白内障を取り上げ、ビデオ等を活用して手術を中心とした治療方法について学ぶ。

耳鼻咽喉それぞれの部位について構造と機能を理解し、耳鼻咽喉科疾患の特徴及び処置・治療を学ぶ。

耳鼻咽喉科領域における最近の医療の動向について理解し、身体的・心理的・社会的問題からも捉えて理解する。

口腔の構造と機能及び症状について理解し、歯・口腔疾患について学ぶ。

また、歯・口腔疾患の最近の動向を踏まえ、歯周病及びう歯を中心に学ぶ。さらに口蓋裂、舌特有の疾患についても学び、病態生理と関連して理解する。

最近の口腔ケアの概念の広がりを踏まえて、口腔保健の意義と患者指導の具体的方法についても学ぶ。

学生の到達目標

1. 脳・神経の解剖生理、症状、主な疾患の症状・検査、治療について理解できる。
2. 運動器の解剖生理症状、主な疾患の検査・治療・処置について理解できる。
3. 皮膚の解剖生理と検査及びおもな疾患の治療処置について理解できる。
4. 眼の解剖生理、症状と検査及びおもな疾患の治療・処置について理解できる。
5. 耳鼻咽喉の解剖生理、症状と検査、おもな疾患の治療と処置について理解できる。
6. 歯・口腔の解剖生理・症状、主な疾患の治療処置について理解できる。

授業概要（授業計画）

<西崎 統>

脳・神経

1. 脳・神経系の構造と機能
2. 症状とその病態生理
3. 検査、診断と治療、処置（画像診断）
4. 疾患の理解、脳疾患、脳血管疾患
5. 脳疾患、脳腫瘍、頭部外傷
6. 脊髄疾患、末梢神経障害
神経、筋疾患、脱髄、変性疾患
7. 脳、神経系の感染症
8. 筆記試験、まとめ

<石丸雅巳>

運動器

1. 運動器の構造と機能
2. 症状とその病態生理
3. 診断、検査と治療、処置
4. }
5. } 疾患の理解 外傷性（外因性）の運動器疾患
6. }
7. 非外傷性（内因性）の運動器疾患
8. 筆記試験、まとめ

<木下美由紀>

皮膚科

1. 皮膚の解剖生理
2. 皮膚の検査、皮膚科疾患と治療
3. 皮膚科疾患と治療
4. 筆記試験、まとめ

<正岡佳樹>

眼科

1. 眼の解剖生理
2. よく見られる視機能に関連した症状、主な検査
3. 主な眼の疾患、治療
4. 筆記試験、まとめ

<加藤 崇>

耳鼻咽喉科

1. 耳鼻咽喉科、頸部の構造と機能
2. 症状と検査、
3. 主な疾患と治療
4. 筆記試験、まとめ

<小林英樹>

歯・口腔

1. }
2. } 歯の解剖生理、歯周病、口蓋裂、う歯
3. 口腔ケア、舌特有の疾患
4. 筆記試験、まとめ

教科書

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[7]	脳・神経	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[10]	運動器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[12]	皮膚	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[13]	眼	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[14]	耳鼻咽喉科	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[15]	歯・口腔	医学書院	最新版

プリント

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	病態治療論Ⅳ (外科療法、麻酔・救急、放射線、リハビリ)	必修	選択	授業形態		単位数	開講時期
				講義		2	1年 通年
区分	専門基礎分野						
担当者	木原 晃	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	20 / 60時間
担当者	寺尾欣也	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	13 / 60時間
担当者	鈴木 孝	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	12 / 60時間
担当者	兵頭峻史	資格	理学療法士	実務 経験	有・無	時間	15 / 60時間

授業の目的・ねらい

外科医学・医療の基礎及び疾患の病態について理解し、外科的診断法、外科的治療の基礎を学ぶ。ここでは手術療法を中心に学び、周手術期（術前・術中・術後、ICU）における治療のポイントについて理解する。

テロや震災などの多発により、救急医療は社会的にも重要な分野である。ここでは救急医療に必要な心肺脳蘇生法を中心に学ぶ。意識障害やショック、多臓器不全等臨床で多く見られる病態について理解し、臓器別系統的観察方法について学ぶ。

また、救急医療に必要な処置についても循環管理及び気管内挿管・気管切開法を中心に学ぶ。画像診断は日々進歩しており、看護師にも最新情報の知識が求められる。看護を実践するために必要な放射線医学に関する知識を整理・厳選して理解していく。

放射線医学の成り立ちから診断を中心に、検査の特徴や放射線の基礎的内容について学ぶ。

また、人体に与える放射線の影響について理解し、放射線治療と看護について学ぶ。

リハビリテーション看護の対象、目的、方法の概略について理解する。

罹患疾患の多い代表的な障害を取り上げ、メカニズム、評価、予後と回復、治療と訓練、看護について学ぶ。

学生の到達目標

1. 外科的診断法、外科的治療法の基礎について理解できる。
2. 各臓器の手術療法と周手術期の治療について理解できる。
3. 救急医療の基礎的療法である麻酔・酸素療法・循環管理・蘇生法について理解できる。
4. 放射線医学の検査の特徴・診断、放射線治療と看護について理解できる。
5. リハビリテーションの基礎的方法、代表的疾患とリハビリテーション看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<木原 晃>

外科療法

1. 外科的療法とは 呼吸器
2. 内分泌（甲状腺）・乳がん
3. 小児外科
4. 循環器・脈管
5. 消化器（上部・下部）
6. 消化器（肝・胆・膵）
7. 外傷・中毒・多臓器不全
8. ショック・急性腹症
9. 術後合併症・その他
10. 筆記試験、まとめ

<寺尾欣也>

麻酔・救急

1. 麻酔法 麻酔前の準備
全身麻酔
2. 麻酔法 局所麻酔
麻酔に使用される薬物
3. 酸素療法と機械的人工換気
救急処置法
4. 救急蘇生法
5. } 総復習
6. }
7. 筆記試験、まとめ

<鈴木 孝>

放射線

1. } 画像診断
2. } X線診断、CT、MRI、超音波検査、核医学検査
IVR・血管造影
3. 放射線治療
4. 放射線治療と看護
5. 放射線防護
放射線による障害と防護
6. 筆記試験、まとめ

<兵頭峻史>

リハビリテーション

1. リハビリテーションの定義と理念
2. リハビリテーション看護の定義と対象
3. 運動器系の障害とリハビリテーション看護
骨折、関節リウマチ
4. 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護
脳血管障害、パーキンソン病、脊髄損傷、褥創
5. 呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護
慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患
6. 感覚器系の障害とリハビリテーション看護
視覚障害、聴覚障害
7. 課題学習
8. 筆記試験、まとめ

教科書

系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院	最新版
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護各論	医学書院	最新版
系統看護学講座	別巻	救急看護学	医学書院	最新版
系統看護学講座	別巻	臨床放射線医学	医学書院	最新版
系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護	医学書院	最新版

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	薬理学	必修	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門基礎分野		選択	講義			1
担当者	徳永喜美男	資格	薬剤師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>薬物の薬理作用及び人体への影響と薬物の管理について学び、薬物の投与形態による体内動態の変化や薬物の作用機序と副作用について理解する。また、薬物の有効性と有害性の関係について理解する。</p> <p>さらに薬理学で得た知識をもとに、臨床で有害な作用を早期に発見し、対応できるように学習を深める。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の薬理作用・投与形態と体内動態の関係について理解できる。 2. 薬物の作用機序と副作用について理解できる。 3. 薬物の管理について、その方法が理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品総論 2. 主な生活習慣病に使用する薬 3. } がん・痛みに使用する薬 4. } 5. } 感染症に使用する薬 6. } 7. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 8. 救命救急時に使用する薬 9. } アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬 10. } 11. 消化器系疾患に使用する薬 12. その他の症状に使用する薬 13. } 14. } 総まとめ 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 臨床薬理学 メディカ出版 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>適宜プリント配布</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	微生物学	必修・選択		授業形態	単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野			講義	1	1年 前期	
担当者	畑 香桜里	資格	臨床検査技師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>近年、医療分野における感染症は多様化している。特に院内感染・日和見感染および新興・再興感染症などにも対応しなければならない。そのために基礎となる微生物学では、個々の病原微生物について学び、次に臓器別・病態・宿主別感染症を理解する。また、抗菌薬および薬剤耐性菌についても学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病原微生物の特徴と、感染方式について理解できる。 2. 病院感染の現状と、その対策について理解できる。 3. 免疫、ワクチン等について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 2. } 微生物(細菌・真菌・リケッチャ・原虫・ウイルス) について 3. 常任細菌叢について、感染と発病について、感染方式・病原因子について 4. 病院感染の現状と病院感染対策について、滅菌と消毒方法について 5. 化学療法剤について、薬剤耐性菌について 6. 免疫とは、生体における免疫による感染防御について 7. アレルギーについて、臓器移植による拒絶反応について 7. 感染防御（ワクチン）について、感染症新法について 8. 終講試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>相川正道 現代の感染症 岩波新書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	総合医療論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 後期	
担当者	石井榮一	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健・医療に携わることを目指すときに、医療の原点、看護のあり方、生命、健康、病気とは何かなど、どうしても一度は考えておくべき基本なことがらを学生自身が考え、現代医療を全般的に見渡し、医療の新しい展望を理解し、看護のめざす大きい目標を明確にする。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の原点、看護のあり方、生命、健康、病気とは何か、など考えておくべき基本的なことがらを、学生自身の考え方を述べることができる。 2. 医療の新しい展望を理解し、看護のめざす大きい目標を明確にすることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と看護の原点 2. 医療の歩みと医療観の変遷 3. 私たちの生活と医療 4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線 5. 現代医療の新たな課題 6. 医療を見つめ直す新しい視点 7. 保健・医療・介護・福祉の近未来像 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>適宜資料配布</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	公衆衛生学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 後期	
担当者	岡田克俊	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健・医療・福祉を総合的に理解し、人々の健康の保持・増進のために知識を活用できるよう解説する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護のための公衆衛生の知識を深めることができる。 2. 公衆衛生に関連する主要な法制度・統計の知識を得ることができる。 3. 公衆衛生の最新の動向と国際的視点を理解できる。 4. 地域との連携を考えることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生のエッセンス 公衆衛生の活動対象 国際保健 2. 環境と健康 3. 地域における公衆衛生の実際 A 公衆衛生看護とは B 母子保健 学校と保健 4. 感染症とその予防対策 地域における公衆衛生の実際 F 歯科保健 G 障害者保健・難病保健 5. 地域における公衆衛生の実際 C 成人保健 D 高齢者保健 E 精神保健 6. 公衆衛生のしくみ 7. 集団の健康をとらえるための手法 - 疫学 保健統計 職場と健康 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>適宜資料配布</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	社会福祉と社会保障	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 後期	
担当者	木村玲奈	資格	社会福祉士	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>社会福祉の歴史の変遷をふまえて、社会福祉と社会保障の意義を理解し、社会福祉制度とサービスの内容について学ぶ。</p> <p>社会福祉が対応している生活問題に直面している人々について、抱えている問題を理解し、必要とされる援助活動についても理解を深める。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の歴史の変遷をふまえて、社会福祉と社会保障の意義を理解できる。 2. 社会福祉が対応している生活問題に直面している人々について、抱えている問題を理解し、必要とされる援助活動についても理解を深めることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基本的性格（構造、住民参加と社会福祉活動） 2. 社会保障制度と社会福祉制度 3. 社会保障制度、医療保険制度・年金保険制度 4. 社会保険制度、社会福祉の分野とサービス 5. 介護保険における居宅サービス 6. 障害者福祉、児童福祉 7. 社会福祉と医療・看護、連携と看護 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>適宜プリント配布</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	看護関係法規	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期
区分	専門基礎分野		講義		1	2年 後期
担当者	山本昭彦	資格		実務 経験	有・無	時間 11 / 16時間
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間 5 / 16時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護職は、深い人間愛をもって人が生きる希望と力を与え、生涯にわたり尊厳をもって輝く人生を送れるよう支援する崇高な業務である。これがため、看護職は高い教養と深い専門知識及び優れた技術技能が求められており、その資格や業務については法律で厳格に規制されている。</p> <p>本講義では、看護に携わる者にとって関連する重要な法規について、その目的や業務等について学習し、必要な知識を身に付ける。</p> <p>さらに、医療過誤について、身近で起こっている事案から、刑事・民事・行政上の責任から捉えて考えていく。</p>						
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉に関連する法律を学び、法規の目的や定義及び業務等について理解できる。 2. 保健師助産師看護師法を学び、法規の目的や定義及び業務等について理解できる。 3. 医療過誤について、刑事・民事・行政上の責任からとらえて考えることができる。 						
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><山本昭彦></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法 の 概 念 労働法と社会基盤整備、環境法 2. 社会 保 障 法 3. 保 険 衛 生 法 4. 薬 務 法、環 境 衛 生 法 5. 医 事 法、試 験 対 策 6. 筆 記 試 験、ま と め <p><岡崎弘美></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保 健 師 助 産 師 看 護 師 法 (沿革、構造、目的、定義、免許、試験、学校・養成所、業務) 2. 看 護 師 等 の 人 材 確 保 の 促 進 に 関 する 法 律 (ナースセンターの目的と意義及び活動) 医療過誤 (刑事・民事・行政上の責任) 3. 筆 記 試 験、ま と め 						
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院 最新版 講師作成の「講義ノート」を併用</p>						
<p>参考書</p>						
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>						